

弓道ながの

第44号

発行：長野県弓道連盟
会長 土川俊市
〒399-6303
塩尻市奈良井611
TEL0264(34)3063
編集：県弓連
印刷：成進社

巻頭言

切磋琢磨

長野県弓道連盟会長

土川俊市



明けましておめでとございます。

会員の皆様方におかれましては新しい年が夢と希望に満ちた年であり

ますように心からお祈り申し上げます。

平成二十三年三月に発生した東日本大震災から一年と十か月過ぎましたが「がんばれ・日本」の合言葉に絆を深め、一日も早い復旧・復興に力を合わせ頑張りました。

政治・経済・生活・社会環境も不透明の状況が続いておりますが、衆議院選挙の結果で政治も落ち着き、経済不況も一日も早く改善されることを切望してやみません。激動の世相の中にあつて弓道の道を志し、自己の修練に励むことのできる幸せを感じて自己を練磨し、人間として夢と希望のもてる明るい社会の創造に貢献していきたい。

のです。

県弓連の事業は全弓連の事業の流れに沿って進行することが主流であり、全弓連や県体協も公益財団法人化され、新しい体制で動き出して一年余を経過し、いよいよ事業内容の充実が問われる年に入ることから、さまざまな改善内容が検討されております。県弓連も同様に検討を重ねて、会員各位とともに現代弓道界に即応した事業を取り入れる時と考えます。一層のご指導・ご協力を切望いたします。

平成二十四年の県弓連を総括してみますと、平成二十三年春の叙勲で山川茂樹名誉会長が旭日双光章を受章されたことから全弓連の功労者表彰を受賞されまし



祝射会 矢渡

の上位を独占する(出場九選手中五選手が三位までに入賞)活躍でした。当然総合優勝でしたが、過去長野県の総合優勝は十七回と最も多く次いで石川県の九回と

た。続いて今日までの業績が認められて、長野県体育協会から有功章に降旗昭雄先生と古澤金蔵先生が受章されました。誠にめでたく、県弓連あげて心からお祝い申し上げます。

第六十七回岐阜県国体では隣県での開催とあって、多くの声援もあり、成年男子が近種目で第三位入賞、少年女子も近種目で第七位に入賞する見事な活躍を見せてくれました。

第五十七回全国高校総体弓道競技が松本市で開催され、個人女子の部で長野県代表の長野日大高校永江有子選手が六位入賞され、第九回全国中学生弓道大会において男子団体の部で長野日大中学校チームが五位に入賞されそれぞれ「弓道長野」の名を高められました。

年度を締めくくると第四十二回北信越地区弓道選手権大会(ここの本県選手の活躍は圧巻でした。大会は男子有段者の部・女子有段者の部・称号受有者の部の三種別の競いで、見事三種別とも一位となり、個人戦で

続きます。うち三種別優勝の完全優勝は、本県は五回となりましたが、実に平成二年以来の二十二年ぶりの偉業となりました。正しく「弓道長野」ここにあり、驕ることなく更に前進しなくてはならないと感じました。

昇格・昇段は教士の昇格は三名と錬士昇格は十名が昇格し、六段への昇段は六名でした。

今年度から施行した年間優秀支部表彰は飯伊支部が獲得しました。飯伊支部会員の団結した日々の修練と活動が実証されたもので、更に一層の精進と活躍を期待いたします。

県弓連の「期待の星」でありました、故井垣貴夫先生が県弓連常任理事の現職で二月四日に病のため五十九歳の若さで急逝しました。生前のご尽力に長野県弓道連盟功勞感謝状をお贈りいたしました。

以上申し上げましたことは、本人の弛まぬ努力による事ではありますが「弓道長野」を今日まで支えてきてくれた先生(師匠)先輩・同僚弓友、家族の協力への感謝を忘れてはならないと思います。

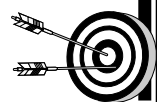
弓道を通じて、自己を研鑽し一人の人間として心身ともに今より明日に向かって「切磋琢磨」更に前進しましょう。日々の修練は自己に厳しく「基本に忠実であれ」を基調とすれば必ず何か得るものがあります。

新年にあたり、会員各位の目指す自己の目標が達成されますようご祈念申し上げます。

ぎふ清流国体 報告

目前的(てき)に非ず

強化部 大口晴男



少し考え方をかえてみたい。国体は文字通り中りがすべての結果をもたらします。では、その「中り」について、考えてみませんか。

ぎふ清流国体の県の予選は昨年(平成23年)12月から始まりました。強化部では、冬季間の稽古に



力を入れようと1、2、3月と各地区での強化練習に部員が出かけ取り組んできました。1月の稽古では、特に少年男女には「ゆがけ」の指し方をはじめ、基本にかえてお互いに確認をしてきました。

2次予選、決定戦を経て代表選手が決まってからは、毎週のように強化合宿が組まれ、北信越国体の全種別の突破を目指します。ここで、稽古の中に「目前的、的(てき)に非ず」の考え方を入れているのはいかに思えます。それは、特に遠的。60メートル先

飛距離に応じて落下しての到達します。ここが、考えどころです。まっすぐ矢が飛ばない以上、どう飛ばせばいいかです。60メートル先の「的」に狙いを付けることができる強い弓の人はいいが、少年女子の場合、大抵は左手拳に「的」は入ってしまいません。的が見通せなければ何を目印にするか、それは簡単です。的の後ろにある「動



かない背景」に目印を見つければよいのです。

その背景に矢が届くよう「仰角」を付け、矢を「空間」に放ってあげればよいのです。

考えて見てください。自分が弓と矢を持って、射位に立ってできること、最後を。それは引いてきた「矢を離すこと」です。的に捕らわれることなく矢を正しい方向、仰角に「向いたまま」離してあげればよいのです。ただ、いろいろなることを考えてしまいます。選手たちも同じです。練習会場でできていたことが「試合」になると……。

昨年のお盆過ぎの「北信越国体」は、数年後に国体の会場となる福井県で行われました。「北信越を突破する」、これは本国体で「予選通過」以上に匹敵する至難の関門です。残念ながら少年男子は通過できませんでした。「遠的が中らない」のは、私たち強化部の指導不足です。近的をうまく引く少年たちですから、その人たちをうまく持っていけないかったのは事実です。私は、成年男子と

一緒に行動していたので、成年男子の経過について最後に記したいと思えます。成年男子北信越のレベルはブロックが課せられる前から高いと思ってきました。それは、今年の本国体でベスト8で競う決勝トーナメントに近的では北信越から3県進出しています。「国体は中てっこだから」と言われますが、北信越のチームは射形もよく、全日本へ出場の選手もいます。そのような中で入賞した選手は「真剣勝負」で、臨んでくれたと思います。

国体の選手たちにいただいた、激励、応援ほんとうにありがとうございました。高校、地域の皆さんに支えられて稽古を積めたからこそその結果です。



第42回北信越選手権大会

11月11日福井市で開催された北信越弓道選手権大会で長野県は男・女各有段者の部、称号受有者の部すべてで1位！完全総合優勝をおさめました。

個人の部でも男子有段者の部で1・2位、女子有段者の部で2位、称号受有者の部で2・3位と、弓道長野の実力をいかに発揮しました。

【成績】

■団体(36射)

男子有段者の部 ▼ 1位 26中

(中村宏 安藤直貴 市川隆光)

女子有段者の部 ▼ 1位 22中

(浦野恵未香 山田静香 井原寿恵)

称号受有者の部 ▼ 1位 27中

(志村仁 亀岡英司 平澤敏弘)

■個人(12射)

男子有段者の部

1位 中村宏 11中

2位 市川隆光 9中

女子有段者の部

2位 山田静香 9中

称号受有者の部

2位 平澤敏弘 10中

3位 亀岡英司 10中



北信越連合会 理事会報告

理事長 杉田 博

11月10日開催の標記会議で25年度の連合会関係の行事日程が左記のとおり決定しました。昨年からの変更点は地区講習会(称号者の部)が二日間になったことです。(長野県関係のみ)

■北信越地区中央講習会

○地区指導者講習会(金沢市)

5月11・12日(土・日)

○地区指導者育成講習会(富山市)

6月8・9日(土・日)

■北信越地区講習会(信越の部)

○四・五段の部(飯山市) 5月19日(日)

○称号者の部(上越市) 5月18・19日(土・日)

(錬士・教士六段まで)

■中央審査

○錬士臨時中央審査(福井市) 6月16日(日)

○臨時中央審査(松本市)

9月7・8日(土・日)

■北信越地区連合審査

○飯山市 6月2日(日)

○射水市 7月7日(日)

○飯田市 10月13日(日)

■北信越地区競技会

○弓道錬成大会(金沢市) 7月28日(日)

○北信越国民体育大会(新潟市)

8月24・25日(土・日)

○北信越選手権大会(上越市)

11月10日(日)

平成24年度

優秀支部表彰

集計表

支部名	得点
飯山	3
中高	2
須高	2
長野	10
長鉄	0
上小	21
小諸	4
佐久	13
南佐久	10
大北	0
安曇	8
松本	11
塩尻	0
木曾	3
諏訪	29
上伊那	18
飯伊	45

明けましておめでとうございます

弓道合宿予約随時受付中!

帝産ロτζヂ

〒384-1305

長野県南佐久郡南牧村野辺山 1003

HP : <http://www.teisanlodge.com/>

ご予約・お問い合わせは 0267-98-2861

野辺山洗心弓道場

近的道場 18人立1ヶ所 (床暖房完備)

12人立2ヶ所

遠的道場 1ヶ所

平成二十四年度 祝射会 (於塩尻市弓道場)

十一月十八日、気温五度の寒い朝、二十四年度の祝射会が開催されました。東信地区の団体バス到着遅れのハプニングがあったものの、九時半過ぎには整列、土川

会長の御挨拶の中、本年度の長野県実績について、次のように詳細な紹介がありました。

二十三年春に旭日双光章を受章された山川名誉会長に全弓連功労者表彰、県体育協会から業績を認められた降旗昭雄先生、古澤金蔵先生に県有功章が授与されました。



十一月十八日、気温五度の寒い朝、天皇杯十五位、皇后杯十八位の成績に貢献された成人男子近的第三位の三名の方、少年女子近的第七位の三名の方、松本市で開催された第五十七回全国高等学校総

合体育大会に於いて個人女子の部第六位永江有子選手(長野日大高)、第九回全国中学生弓道大会に於いて男子団体の部第五位の長野日大中学生チームの四名が表彰され、それぞれ弓道長野県

の名を高めた次第です。

昇段・昇格者については、昨年度昇格者がみられなかった教士に中野栄治先生、瀧澤寿雄先生、関澤喜内先生



の三名、錬士に十名、六段に六名という、昨年度を上回る方々が合格されました。

さらに、今年度より年間優秀支部の表彰制度を採り入れ、二位の二十九ポイントの諏訪支部を大きく引き離して、四十五ポイントで見事飯伊支部が第一回の優秀支部に選ばれました。飯伊支部を模範として各支部の発展を願うものです。

今年、一月、第十二回明治神宮遠的大会個人の部で志村選手の優勝に始まり、十一月、明治神宮奉納射会有一段者の部で中村選手の優勝で終ると思

謹賀新年

全日本弓道具協会会員

中島弓具店

有限会社

〒380-0935
長野市中御所1丁目12番5号 TEL 026-228-3443 FAX 026-223-4855

限りない弓道心に
真心で御手伝い



きや、第四十二回北信越弓道選手権大会に於いて男子、女子有段者の部、称号者の部の三種目の完全優勝による総合優勝(五回目)という輝かしい成績(総合優勝としては十七回目)を納めて終ることができました。本人の努力はもとより、多くの先輩方の献身的な働きが大きいことを忘れてはならないというお言葉がありました。

また、県弓連常任理事の現職で、二月に急逝された故井垣貴夫先生を惜しみ、生前の功労を讃え感謝状が贈られました。

表彰式の後、被表彰者の代表とし



て山川名誉会長のお礼の御挨拶、その後土川会長の矢渡、一般参加による一手坐射の祝射(八十八名)、被表彰者による答礼射(三十名)がピーンと張り詰めた雰囲気の中で行われました。祝射会の後、十三時三十分からは中信会館に会場を移し祝賀会が盛大に催されました。

(広報 加藤明美)



「和を以って貴しと為す」

飯伊支部長 篠田 知博

本年度より新しく「優秀支部表彰」制度ができ、その第一号として飯伊支部が受賞することになり、誠に光栄なことと感謝いたしています。当支部におきましては、三十年余に亘り支部運営、発展の為に多大の尽力をされた、前村松支部長より昨年小生が引き継ぐ事になり、その運営をいかにすべきか思案いたしました。その結果、「和を以って貴しと為す」の基本方針の本、守るべきは守り、改めるべきは改めて、会員各位の協力の



上、「正しく」「仲良く」「楽しく」をモットーとして発足いたしました。

「正しく」

県弓連の一支部でも一つの組織である以上、そこには何等かの規律が無ければなりません。その規律に従うことが、一般に正しいことであると思えます。弓道においても「射は正しきを己に求む」と言われている通り、正しい射の習得が要求されています。

「仲良く」

われわれは、支部の一員として如何にしたら支部の和を期すべきか。そのためには、まず、お互いに敬い合い協力して、苦楽を共にせねばなりません。端的にいうなら、仲良くせねばならぬということになります。その一手段として県連情報や支部内の出来事など、情報の風通しを良くするよう配慮しました。

「楽しく」

弓道をライフワークとして楽しむためには、弓が好きにならねばなりません。その一つとして、これからの弓道界を背負って立つ若手の育成が欠かせません。彼等には、人間形成の手段としての弓道の研鑽に生き甲斐を見出して行ってほしいと思えます。また一方で、健康維持と親睦に弓道を楽しむグループの助成も大切なことです。

いずれにせよ、弓道界において、自分の存在が何等かの形で役に立っているという自覚から生ずる満足感が生き甲斐と楽しみを感じるものと思えます。

以上思いつくままに書きましたが、県弓連と飯伊支部の益々の発展を祈念いたします。

た、前村松支部長より昨年小生が引き継ぐ事になり、その運営をいかにすべきか思案いたしました。その結果、「和を以って貴しと為す」の基本方針の本、守るべきは守り、改めるべきは改めて、会員各位の協力の

上、「正しく」「仲良く」「楽しく」をモットーとして発足いたしました。

「正しく」

県弓連の一支部でも一つの組織である以上、そこには何等かの規律が無ければなりません。その規律に従うことが、一般に正しいことであると思えます。弓道においても「射は正しきを己に求む」と言われている通り、正しい射の習得が要求されています。

「仲良く」

われわれは、支部の一員として如何

前号にて、功労者表彰を受けられました山川茂樹先生にご寄稿をいただきました。引き続き、後編を掲載いたします。

私の弓道の原点を振り返って(後編)

長野県弓道連盟名誉会長 山川茂樹



次に私の弓道修練の原点であり、見取り稽古の対象であって、近くで常に指導を受けることのできた先輩弓人の先生方について述べておきたい。

弓道部長、六代上伊那支部長を務めた。指導力に優れた先生で、先生に指導を受ければ悪癖も直ってしまいう程、私も先生から指導を受けて多くのことを学ぶことができた。

教士七段高木太市先生は、二代体協弓道部長、六代上伊那支部長を務めた。指導力に優れた先生で、先生に指導を受ければ悪癖も直ってしまいう程、私も先生から指導を受けて多くのことを学ぶことができた。

教士六段小川弥作先生は、初代の弓道部長で、部長を十一年間務め、この間弓道場の改築や、南信三郡対抗射会を計画して中日新聞社から優勝旗を寄贈して貰う等、弓道普及発展に功績を残した。

教士六段三沢孔文先生は、二代上伊那支部長に就任、理論的な指導で多くの弓道人を育てた。教士六段弾塚先生は三沢先生の門弟である。先生が寄稿した「弓と矢の話」(伊那路第十一巻第六号)には、当時の伊那谷の弓道の

様子が詳細に述べられている。

教士七段高木太市先生は、二代体協弓道部長、六代上伊那支部長を務めた。指導力に優れた先生で、先生に指導を受ければ悪癖も直ってしまいう程、私も先生から指導を受けて多くのことを学ぶことができた。

教士七段酒井一美先生は、飯島陣屋弓道場で武徳会教士六段北原順一先生に師事。美しく品格のある弓は常に私の手本であり憧れであった。先生は四代・七代上伊那支部長を務め、現在も続いている支部遠の大会の優勝杯を寄贈した。

教士六段弾塚寛先生は、自宅に弓道



三沢孔文先生から指導を受けているところ(昭和32年 当時四段)

大臣表彰を受章した。錬士五段鈴木親先生は、信州大学の職員で野辺山の範士八段亀岡武先生に師事、伊那地方で唯一の本多流の継承者である。退職後は自宅に弓道場「無名洞」を建設して弓道愛好者に開放した。十代上伊那支部長を務め、後輩の指導にあたり、支部規約の制定、支部遠の大会の創設を行い、体協および支部の発展に力を尽くした。

教士七段刈間石雄先生は、赤穂町(現

場を持つて後輩の指導にあたった。先生にすすめられて弓の道に入った私の大恩師である。先生との出会いがなかったら私の弓はなかった。八代上伊那支部長を務め、県弓連常任理事、理事長、副会長を歴任した。弓は品格があり、的中率も高く、全日本勤労者選手権大会・国体に数多く出場して競技選手として活躍した。また国体の監督として選手の指導育成に力を尽くした。こうした功績が認められ文部科学大臣表彰を受章した。

駒ヶ根市)に住み、県弓連副会長を歴任し、多くは伊那市宮弓道場が稽古の場であった。先生は小笠原流「歩射相位弓」の免許を有し、小笠原流南信同門会会長を務め、体配の指導には大変厳しい先生であった。また先生の力で小笠原流宗家清信先生を招聘して講習会が開催され、直接ご指導を受けることができたことは大変幸せでした。弓道は体配と射技が表裏一体であり、射の品位・品格について小笠原先生から大きな感銘を受けたことを今も忘れません。その後の私の弓に大きく影響があったことを感謝しているところです。このように刈間先生は私の弓にとって忘れることのできない先生でした。

このように多くの先生との出会いや、厳しい指導、格言や名言、すべてが私の弓の力となり、原点となっています。この幸せに感謝するとともに、今は故人となられている先生方に心からお礼を申し述べます。



私と弓道

木曾支部 四段 松原 重雄

私が弓道を始めたのは六十五歳からです。木曾義仲の菩提寺、德音寺の境内にある弓道場で林先生、先輩の方に教えを受けたのが最初でした。弓は簡単に引けるものだとばかり思っていたので本式に弓矢を執ってみて、その難しさと奥深さに驚嘆するばかりでした。その思いは今も変わりませんが、能の動きを想わせる一つ一つの所作(型)にこれほど厳格さを要求される武道は、他に余り無いように思うのです。

整った呼吸(息合)から所作(型)が整い、整った所作から心が整ってくると行射の度に思います。そして、高段者の先生方の流麗で品格ある射を拝見し、これが弓道の「型を出した」内から溢れ出る美しさだと感動します。

決して動かない相手に正対した時、動くものはこちらの心です。心を無にして対さなければ勝負にならないと的に向かう度に思うのですが、的に向かえば的の中に拘り、中らなければ何の彼のと言いつつ、競射になれば相



手に勝ちたいと思う心の弱さ狭さ、又、技の拙さを情けないと思うことしきりです。

日本武道が「心・技・体」と「心」を真つ先にもつてきている意味の深さを痛感します。弓道は年齢に関係なく引け、一人で引いても楽しく、仲間と引けば互いに高め合いながら一層楽しいのですが、また、哲学に充ち満ちた広く深い武道であると思っています。

射法八節の一節一節に、一日の、一年の、そして、少・青・壮・老といった年代の生き方に喩えらるるものがあるように考えることがよくあります。

余命を数える歳になった今、弓道との出会いに感謝し、己の人生の「残心」をどのように美しく残せるかを想いながら一射の精進に努めています。

弓仲間紹介

上小支部 丸子弓道会 高木 涼子

平家物語によると、木曾義仲公は旧丸子町中心に募兵し、数千騎を率いて挙兵し平家追討のため出陣しました。義仲は弓矢達人で旭將軍とも呼ばれ征夷大將軍になりました。このことから丸子とは深い因縁がある存在です。

さて、丸子弓道会は昭和四十四年一月に発足。木下貞澄氏の呼びかけで数人が丸子某銀行裏庭で巻藁前練習を始め、次第に人数が増し弓道場建設機運が高まり関係者の熱意により「三人立弓道場」が完成したのが十一月です。

十年後の昭和五十四年に丸子町体育協会へ加入し、地域貢献を積極的に開始。弓道教室、百八射会、二年後には耐暑五十射会が始まりました。

道場建設から十二年後の昭和五十六年、公園法改正により丸子公園横に町営六人立弓道場が建設され、これまでの弓道場は撤去され跡地には遊具が設



置されています。それから六年後に初回の木曾義仲拳兵県下弓道大会が開催され、県内外より弓友弓士を丸子へお迎えすることが出来るようになりました。

平成十八年に合併により上田市丸子弓道場になりましたが、「澄心館」という別名によりこれまでの足跡を残しています。(資料提供 芹沢重友錬士五段)

現在堀内英征会長以下、宮川登教士七段を筆頭に会員数三十三人で、中学生から八十歳代までの幅広い年齢層により会が運営されています。弓以外にも色々な能力が発揮され、矢道屋根、石畳、手すり、幕布文字(澄心)、看板、防寒幕の作成から設置など全て会員によるものです。そして琛は特にすばらしい出来栄です。整備清掃後のそば打ち会や料理自慢のご馳走をいろいろ頂戴できるのも楽しみです。

で、日々の稽古の糧となっています。弓友弓士の皆様、丸子の木曾義仲拳兵県下弓道大会へぜひお出掛け下さい。会員一同お待ちしております。

大会結果

長野県弓道支部對抗競技会

○9月2日(日)

長野運動公園弓道場

▲支部對抗結果

総合優秀支部 諏訪支部

▲近的団体戦(60射)

1位 飯伊支部 41中

2位 諏訪支部 39中

3位 木曾支部 36中

4位 上伊那支部 36中

5位 松本支部 34中

▲遠的団体戦(60射)

1位 諏訪支部 43中

2位 飯伊支部 38中

3位 上伊那支部 34中

4位 佐久支部 32中

5位 飯山支部 31中

▲近的個人戦(12射)

1位 平澤敏弘(飯伊支部) 11中

2位 中村宏(諏訪支部) 11中

3位 山田静香(上伊那支部) 11中

▲遠的個人戦(12射)

1位 平澤敏弘(飯伊支部) 12中

2位 小澤剛志(上伊那支部) 11中

3位 市川隆光(諏訪支部) 11中

○9月9日(日)

愛知県体育館内特設射場

▲一般男子団体

5位 長野県諏訪支部(中村宏、吉澤忠秀、市川隆光)

第29回無相大師奉賛弓道大会(高校の部)

○9月9日(日)

中野市営弓道場

参加数・461名

▲団体男子(3人1組 各自8射 計24射)

1位 長野日大(佐藤悠成、狩野森、和田知大) 17中

2位 長野工業(澤田祥司、永井健太、森山翔哉) 15中

3位 須坂(湯本光、矢部岳史、池田祥之) 15中

▲団体女子(3人1組 各自8射 計24射)

1位 須坂(藤井咲希、関屋明里、千村瑠香) 14中

2位 須坂(萩原若菜、和田有加里、吉谷真由子) 13中

3位 須坂(和歌月愛菜、児島彩桂、高橋真緒花) 12中

▲個人男子(8射)

1位 高橋佳大(北部) 7中

2位 佐藤悠成(長野日大) 7中

3位 近藤良(長野商業) 7中

▲個人女子(8射)

1位 山本美音(長野工業) 6中

2位 千村瑠香(須坂) 6中

3位 笠原優花(立志館) 6中

第54回塩尻市武道大会

○9月16日(日)

参加数・一般64名、高校生189名、中学生6名、合計255名

▲団体の部

1位 安曇野(田中みゆき、永沼弘子、丸山萬佐巳)

2位 大町れんげ(谷敏子、荒井ゆき子、遠山昌信)

3位 長鉄クラブ(山崎利八、油井博志、中島勲)

▲高校

1位 美須々男子A(馬淵由行、赤羽峻、本林郁未)

2位 松商男子B(百瀬桂太、土屋洋輔、手塚誓哉)

3位 松商女子B(中島紫帆、青柳真帆、荒井朝也香)

▲中学

1位 翔翱(三田美央、眞島由衣、山崎千夢)

2位 桐皇(浅井香那、山田美咲、庭屋くるみ)

▲個人の部

1位 手塚誓哉

2位 唐澤史章

3位 中島紫帆

4位 丸山萬佐巳

5位 川窪亮一

第67回国民体育大会「ぎふ清流国体」

○10月6日(土)～9日(火)

恵那市まきがね公園多目的広場(特設弓道場)

▲少年女子

近的7位入賞

▲成年男子

近的3位入賞

第32回池田町秋季県下弓道大会

○10月7日(日)

池田町弓道場

参加数・高校87名、一般42名、計129名

▲個人の部

▲高校・一般共通(8射)

1位 金山友香(美須々女子A)

2位 岩垂優一(上田千曲A)

3位 花見直輝(上田千曲B)

▲団体の部

▲高校(12射)

1位 美須々女子A(金山友香、野口みつぎ、小泉知央)

2位 豊科男子A(谷岡駿、皆川裕作、片瀬佳)

3位 美須々男子A(堀内直輝、小松祐太、三澤一輝)

▲一般(12射)

1位 木曾義伸(広田義照、野田陽子、林義泰)

2位 池田B(中島端子、中牧京子、遠山奈美)

3位 池田A(窪田和恵、山田鏑二、山田雅亮)

第32回飯山市民弓道大会

○10月7日(日)

飯山市弓道場

参加数・高校男子17名、高校女子15名、一般男子4名、一般女子8名

▲団体の部(48射)

▲高校男子

1位 飯山北B(和田拓己、諏訪喜紀、涌井颯太)

▲高校女子

1位 飯山北C(高橋琴乃、川口萌、松井真帆)

▲個人の部(16射)

▲高校男子

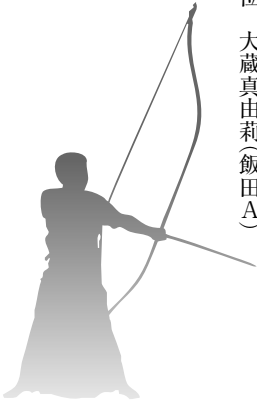
1位 諏訪喜紀(飯山北B)

2位 涌井颯太(飯山北B)

▲高校女子

1位 涌井颯太(飯山北B)

2位 涌井颯太(飯山北B)



第58回県下弓道飯田大会

○10月7日(日)

飯田運動公園県営飯田弓道場

参加数・201名

▲高校男子の部

- 1位 山里伸太郎(松川下農)
 - 2位 高橋一輝(阿南C)
 - 3位 大場功貴(長姫A)
 - 4位 山崎康平(岡谷南A)
 - 5位 市瀬康紀(駒ヶ根工)
- ▲高校女子の部
- 1位 千葉仁奈(伊那北B)
 - 2位 新井花奈子(飯田B)
 - 3位 宮澤美紅(岡谷南A)
 - 4位 濱島渚(伊那西)
 - 5位 大藏真由莉(飯田A)

- ▲一般男子
- 1位 飯田秀樹
- 2位 岡田宏之
- 3位 江田浩二
- ▲一般女子
- 1位 福沢信子
- 2位 本山かえで
- 3位 清水和代

第61回上田市民総合体育大会弓道の部

○10月8日(月・祝)

上田城跡公園弓道場

参加数・高校141名、一般20名

■高校の部

▲男子個人

- 1位 近藤卓也(上田千曲)
 - 2位 大塚祐一(上田東)
 - 3位 志野純也(上田千曲)
- ▲女子個人
- 1位 古越あおい(上田染谷丘)
 - 2位 栗田恵理(上田)
 - 3位 山口裕希(上田)

■一般の部

- ▲総合優勝 宮崎完
- ▲男子称号の部
- 1位 宮崎完
- 2位 奥山雄三
- 3位 安藤教光

- ▲男子有段者の部
- 1位 征矢理啓
- 2位 手塚信幸
- 3位 佐藤忍

第60回全日本実業団弓道大会

○10月20日(土)～21日(日)

明治神宮

▲個人戦交歓射会

- 3位 市川隆光(諏訪市役所・長野県、諏訪支部)

▲遠的男子個人

- 1位 牧内和弘(中部電力・愛知県、飯伊支部)

第10回千曲市長杯弓道大会

○一般の部10月28日(日)・高校の部11月3日(土)

千曲市弓道場

参加数・高校男子31チーム、

高校女子29チーム、一般23名

■一般の部(近的8射)

- 1位 高畑正之(千曲)
- 2位 飛知和明弘(上小)
- 3位 田中和彦(千曲)
- 4位 笠井実(千曲)
- 5位 岡田宏之(飯山)

▲金的

窪田和恵(千曲)

■高校の部

▲男子の部(各自4射・2回)

- 1位 塩尻志学館(唐澤史章、中村海斗、中山大、下島佑太、川窪亮一) 28中
- 2位 長野日大B(佐藤悠成、小野洗、中村誠人、和田知大、大宮樹) 28中
- 3位 長野工業A(澤田祥司、本山大夢、小林聖昌、森山翔哉、永井健太) 25中

第24回国宝松本城奉射弓道大会

○11月3日(土・祝)

松本市弓道場

参加数・高校男子99名、高校女子95名、一般96名、合計290名

▲高校個人男子の部(近的8射)

- 1位 勝家優太(松商学園)
 - 2位 佐々木光(岡谷工業)
 - 3位 松林大貴(県ヶ丘)
 - 4位 手塚誓哉(松商学園)
 - 5位 青木輝(深志)
- ▲高校個人女子の部(近的8射)
- 1位 高橋知雅(県ヶ丘)
 - 2位 青柳真帆(松商学園)
 - 3位 小林なるみ(松商学園)
 - 4位 菅溪子(深志)
 - 5位 須賀友里加(美須ヶヶ丘)

▲一般個人の部(近的8射)

- 1位 永治拓也(信州大学)
- 2位 上野曜(諏訪)
- 3位 高伸成人(上伊那)
- 4位 浦野恵未香(松本)
- 5位 亀岡英司(南佐久)

平成24年度 明治神宮奉納全国弓道大会

○11月3日(土・祝)

▲有段者の部

- 1位 中村宏(長野) 五段

▲一般の部

- 1位 坪井優(矢真飛)
- 2位 栗山節子(高森)
- 3位 藤澤敏子(上郷)
- 4位 富田万希子(上飯田)
- 5位 中山光康(座光寺)

▲女子の部

- 1位 羽田利矢子
- 2位 渡邊園美
- 3位 柳澤知恵

▲女子の部(各自4射・2回)

- 1位 篠ノ井C(祖山紗緒里、原優芽、倉石彩加、竹前沙耶、堀内真瑠) 26中
- 2位 長野(中村亜美、村松真帆、岡村詩絵里、八町佑華、武田莉紗) 22中
- 3位 長野日大B(小池優佳、塩崎葵、青山華穂、佐藤愛、瀧澤里帆) 19中

第47回県下弓道飯島大会

○11月4日(日)

飯島町弓道場

参加数・158名

▲個人 学生(8射)

1位 宮澤美紅(岡谷南B)

2位 大澤雅(下伊那農業)

3位 小木曾梨香(伊那西C)

4位 佐々木光(岡工A)

5位 平林敦樹(東海大三A)

▲個人 一般(8射)

1位 柴翔太(岡工OB)

2位 小澤剛志(弓魂)

3位 川上誠(修徳館)

4位 中村宏(諏訪湖)

5位 坪井優(飯田混成)

▲団体(上位8チームによるトーナメント戦)

1位 東伊那(春日貴、湯澤幸司、湯澤敬二)

2位 修徳館(武川勇、川上誠、有賀渡)

3位 岡工A(小澤慎太郎、佐々木光、岩原祐貴)

第42回北信越弓道選手権大会

○11月11日(日)

福井県立武道館弓道場

▲総合

1位 長野県

▲団体の部

▲男子有段者の部

1位 長野県

▲女子有段者の部

1位 長野県

▲称号受有者の部

1位 長野県

▲個人の部

▲男子有段者の部

1位 中村宏(諏訪)

2位 市川隆光(諏訪)

▲女子有段者の部

2位 山田静香(上伊那)

▲称号受有者の部

2位 平澤敏弘(飯伊)

3位 亀岡英司(南佐久)

第58回東西学生弓道選抜対抗試合

○11月24日(土)

伊勢神宮弓道場

▲射道優秀賞

清水北登(信州大学)

20射19中

第2回北信越高等学校弓道新人大会

○11月24日(土)

上越市高田公園弓道場

▲男子団体

1位 松本深志高校

2位 長野日大高校

▲女子団体

3位 飯田女子高校

第36回全日本学生弓道女子王座決定戦

○11月25日(日)

伊勢神宮弓道場

▲優勝

信州大学

▲最優秀選手

細谷真奈実(信州大学)

▲優秀選手

鈴木亜有実(信州大学)

第68回南信弓道大会

○11月25日(日)

飯田運動公園県営飯田弓道場

参加数・249名

▲個人の部

▲総合優勝 柴翔太(岡工OB)

▲高校無段者の部

1位 片桐亮平(下農D)

2位 柳澤暢宏(岡工C)

3位 富濱紘夢(岡南D)

4位 市岡大輝(飯工D)

5位 富内琴乃(長姫E)

▲高校有段者の部

1位 柴翔太(岡工OB)

2位 戸田成俊(下農C)

3位 上野曜(岡工OB)

4位 平林敦樹(東海大三)

5位 赤羽唯花(辰野A)

▲一般参段以下の部

1位 橋都淳(高森B)

2位 佐野弘明(喬木A)

3位 小松徹郎(駒ヶ根)

4位 笠原武明(松川B)

5位 田中宏(高校教員)

▲一般四段以上の部

1位 林玲子(豊丘B)

2位 平澤敏弘(矢真飛)

3位 中村健二(矢真飛)

4位 松枝敏広(豊丘B)

5位 常盤三男(松尾)

▲団体の部

1位 矢真飛(中村健二、坪井優、平澤敏弘)

2位 豊丘B(林玲子、井原寿恵、松枝敏広)

3位 岡谷工業OB(三浦涼平、上野曜、柴翔太)

雑言

世阿弥の「花伝書」の「稽古條々」を若い頃に読み合わせたことがありますが、能の稽古の心構えを説いたものです。内容はほとんど忘れましたが、弓を始めたことで、頭に染みついた言葉が二つだけあります。

ひとつは「稽古を晴れの舞台と思え、晴れの舞台を稽古と思え」。よく引用される言葉です。そのつもりで稽古しても、本番に平常心で立つことは容易ではありませんが、心構えとしては納得できる言葉です。

今ひとつは「離見の見」。「りけんのかん」と読みます。離見とは離れてみることで、つまり能の稽古をするとき、自分の演じる姿が、客席から見ればどのように映るか、それを頭に置きながら稽古しなさい、ということ。

この言葉からは、審査の情景が頭に浮かんできます。考えてみれば、講習を受けること然り、見とり稽古も、日頃の研鑽も「離見の見」を向上させることにあると言えるでしょう。

で、それで?、自分のこととなると、うーん、大あまで、世阿弥の顔を拝めそうにはありません。

(飯伊支部 松澤英男)